

歯科センター

1. 2006 年度の目標および方針

亀田メディカルセンターの基本理念・方針に基づいて、歯科センターは安定した経営基盤を確立していくように努力し、2006 年度も質の高い医療の提供を心がけ、患者さまに満足していただけるようにスタッフ一丸となって邁進していきたいと思っています。昨年度に引き続き、歯科センターの推進計画は以下の通りです。

1)財務の視点：診療報酬引き下げに対応する。

患者数を増加する。

自費診療の推進を図る。

2)顧客の視点：患者さまが満足のいく医療を提供し続ける。

満足度調査を実施して質の高い医療提供をする。

(歯科矯正・母親教室・受付会計業務・I/C 用紙について)

歯科ドックを引き続き促進する。

義歯のネーミングを推進する。

3)業務プロセスの視点：効率のよい業務運営を図る。

インシデント報告に関する促進とフィードバックを行う。

手順書や情報資産の見直しを図る。

4)学習と成長の視点：積極的に研修会に参加する。

医療安全・感染管理に関する研修には年一回必ず参加する。

2. 2005 年度の評価

1)健康管理活動を充実させ、歯科ドックや母親学級の内容評価を行う。

歯科ドックのコースを基本コース・口腔外科コース・歯周病予防コース・審美歯科コースと 4 コースに増やしたが、一日日帰りドックの患者さまへの対応が必ずしも十分とは言えなかったため、2006 年度は引き続いて推進していく予定である。

妊婦のための母親学級では、31 人の方にアンケートをとらせて頂いたところ「よく解った 73%」「だいたい解った 27%」と受講して下さった殆どの方に理解して頂いた結果となったが、さらに理解度を高めるために情報提供の方法を工夫していく予定である。

2)訪問診療をサポートするために義歯のネーミングをさらに普及させる。

義歯のネーミングの普及は毎月平均的に御要望があり、2005 年度は計 70 床の義歯にネーミングを行ったので、今後もさらに推進していく予定である。

3. スタッフ紹介

歯科センターのスタッフは、歯科医師数は、常勤 32 名、非常勤 5 名、出向者 8 名、臨床研修歯科医 6 名、歯科衛生士は、常勤 31 名、出向者 12 名、歯科助手は、出向者 4 名、定時職員 5 名、歯科技工士は 13 名、歯科業務課は、職員 8 名、定時職員 3 名、経営管理本部歯科事業部 4 名で構成されている。

歯科医師は、関連学会指導医・認定医をはじめ、最高の歯科医療を提供したいと考えるスタッフが揃っている。また当院の歯科医師臨床研修プログラムを修了した後、研鑽を積んでいる歯科医師も少なくない。田村英俊歯科診療部長を中心に患者さまに満足していただける質の高い歯科医療の提供をめざしている。

臨床研修歯科医は 1997 年度の研修医制度発足以来、当院の研修プログラムに従って、診療に必要な知識・技能等を身につけるように毎日研修を続けている。

歯科衛生士は診療補助や診療器具・機材管理の仕事のみならず、口腔衛生の知識と技術を十分身につけ、口腔内衛生管理の動機づけから教育まで携わっている。予防処置や歯磨き指導等の仕事も重要な位置を占めている。また口腔ケアのプロとして居宅訪問歯科や施設訪問歯科治療、NST の一員としての役割も重要である。

歯科技工士は歯科技工物の製作に関して、あらゆるニーズに応えられるように研鑽を積んでいる。常に高品質の製作物が提供できるように、できあがった技工物は必ずダブルチェックし、満足の出来る状態を保っている。

歯科業務課職員は「歯科センターの顔」として、常に患者さまに接したり、電話に対応したりと笑顔を絶やさず臨機応変の対応に努力している。毎月の診療報酬請求の際には誤りの無いように細心の注意を払い、速やかに仕事を行っている。また診療に必要な器具や材料の発注管理も行っている。

4. 診療内容と業績

ユニット・チェア数 33 台で 2005 年度の歯科外来一日平均患者数は 327 名、歯科入院一日平均患者数 7 名で、病院歯科として発展的な施設である。歯科・口腔外科・小児歯科・矯正歯科・口腔内科など患者さまのあらゆるニーズに応えられるようにしている。

1) 歯科(一般歯科)

歯科保存科(保存修復科、歯周病科、歯内療法科)、歯科補綴科等を含めて全般的に診療している。口腔が全身の一部であるという認識のもとに、診療計画を立てて診療している。Oral health に対する助言が出来るように的確に診断と治療が出来て、患者さまに満足のいく治療を提供できるように心掛けている。レーザー治療やデンタルインプラント等、最新の治療にも積極的に取り組んでいる。

2) 口腔外科

日本口腔外科学会の認定機関で田村英俊部長のもとであらゆる症例をこなす診療に携わっている。炎症、外傷、嚢胞、腫瘍、顎奇形・変形等はもちろんのこと、一般歯科では困難と思われる症例の抜歯等も数多く手がけている。またデンタルインプラントの困難症例にも対応できるようになっている。

スポーツ歯学の観点から、個人に合うマウスガードを作製して運動時の外傷予防や筋力アップに役立つようにスポーツを側面からサポートする治療も開始した。

2005 年度の中央手術症例数は総数 85 例で、全身麻酔症例 70 例、局所麻酔症例 15 例であった。心身障害者(児)の全身麻酔下での齶蝕治療も行っている。

インプラント一次手術症例は 89 例で、そのうちクリニック手術室症例は 41 例で埋入総数は 190 本であった。治療が円滑に進むようにインプラントコーディネーターを配置して質の高い治療をめざしている。

2005 年度の入院症例の内訳は表 1 の通りであった。

表1 2005年度入院症例内訳

症 例	症例数	症 例	症例数
悪性腫瘍	20	唾液腺腫瘍	3
良性腫瘍	13	抜 歯	35
嚢 胞	15	インプラント	3
骨 折	20	全麻う蝕治療	6
顎変形症	14	そ の 他	11
炎 症	32	計	172

3)小児歯科

小児歯科認定医である伊藤香織歯科医師を中心に、患児自らが歯科治療の必然性を理解するように日々努力しながら診療に臨んでいる。口腔内清掃に関しても毎日の積み重ねが大事なことを、家族ぐみでわかっていただくように努力している。乳歯期から永久歯期に移行するまでの重要な時期の診療である。2006年度は障害児の歯科治療はもちろん、小児歯科全般の治療もさらに充実させていく予定である。

4)矯正歯科

歯列不正、咬合誘導と「噛む」という非常に重要な行為に関与している。小児の歯列矯正はもちろんのこと、顎変形症をはじめ成人歯科矯正も多く手がけている。

更正医療指定医療機関として関連医科との連携のもとに口蓋裂患者の矯正治療も行っている。

5)顎関節咬合科

咬合科外来を設置して毎週土曜日に丹羽克己顧問の指導のもとにチーム医療で顎位の定まらない場合や顎関節症の場合で困難な症例を治療している。

6)口腔内科

2002年4月に開設した口腔内科は、口腔粘膜疾患や口臭に悩む患者さまの相談を受けたり、ドライマウスの患者さまの診療にも携わったりしている。セカンドオピニオンを求めて来る患者さまにも対応している。口臭測定器も準備されており、種々の検査や診察を行う。

7)審美歯科

「白い歯」をお望みの方にホワイトニング(歯の漂白)治療を行っており、若い女性を中心に好評を博している。診療室で行うオフィスホワイトニングと自宅で行うホームホワイトニングを合わせて患者さまも2005年度は46例と、ますます需要が増えてきている。「白い歯」になった患者さまは白さを保つようとさらに口腔ケアに関心を持つ方が多く、思わぬ効果をもたらしている。

8)訪問歯科診療

在宅訪問歯科診療は勿論、介護特別養護老人ホーム等の訪問施設は徐々に増え、現在は20施設にもなっている。訪問歯科診療車を使って歯科医師と歯科衛生士による診療チームが積極的に取り組んでいる。

9)歯科衛生士による口腔ケア(PMTC)・デンタルエステ

専属の歯科衛生士が歯科医師の指示のもとに、患者さまの口腔衛生指導やスクレーピングなどを定期的に専門の個室で行っている。2005年度は32例の要望があり、日常歯ブラシで磨いても、どうしても磨きにくい部位をPMTC(professional mechanic

altooth cleaning)を行うことにより、歯質の強化、むし歯の予防や汚れの再付着を防ぐとともに、歯肉炎や歯周病の予防にも効果を上げている。

10) 歯科ドック

健康管理センターの人間ドックの一環として、歯科ドックを4つのコースに拡充した。一般的なコースから、歯周病や口腔癌の検査コースと、あらゆるニーズに対応するようにして、日帰りドックの方の需要にも応じられるようにしたいと思っている。

11) 入院患者往診歯科

入院病棟の担当医からの依頼に応じて、ベッドサイドに歯科治療の往診に出向くことも行っている。口腔ケアが不十分になりがちな入院患者さまが「食べる」機能を維持し、早く健康回復出来るように支援している。

12) 小児病棟入院患者刷掃指導

定期的に小児病棟に歯科医師、歯科衛生士のチームで訪問して、口腔衛生指導や口腔内の診察を行っている。

13) NST(栄養サポートチーム)

院長直属の組織 NST に参加し、患者さまの食事が満身に摂取できるよう、誤嚥性肺炎の原因になる口腔内細菌を減らすように、担当歯科医師、歯科衛生士が積極的に口腔内ケアを行っている。カンファレンスや勉強会にも参加して「食べる」「噛む」機能を維持増進したり、改善したり出来るように活動している。

14) 健康フェアへの参加

毎月第2火曜日の午前中にクリニック 1F ロビーで行われる健康フェアに参加して、無料歯科検診や相談を行っている。

15) 母親教室への参加

妊婦の方を対象に毎月1回、口腔衛生指導等を歯科医師・歯科衛生士のチームで、妊娠中や出産後の口腔ケアについて情報提供などを行っている。2005年度はアンケートをとったところ、講義内容はほぼ理解して頂けたようなので、今後さらに役立つ情報を提供するように推進していく予定である。

16) 妊婦さんのための「お口のケアプログラム」

当院産科とサンスターとの共同研究として、妊娠期の齲蝕症や歯周病の検査を行って口腔内ケアを行うプログラムを2004年10月から開始した。参加登録して下さった患者さまは150名を超え現在は結果を集計中である。

17) マザーズスクール

2ヶ月に一度、小児歯科患者のお母さまたちを対象に開催している。子供の歯に対する疑問や不安に答え、歯ブラシの使い方はもちろんのこと、食事やおやつに関する情報を提供したりしている。

18) 糖尿病短期入院患者さまへの取り組み

歯科センター開設以来、糖尿病教育入院の患者さまに対して歯科医師が糖尿病と口腔との関連に関する講義を行い、歯科衛生士が個別に口腔衛生指導を行っている。

19) 夜間救急対応

月曜日から土曜日までは歯科医師が救命救急センターに当直して、夜間の歯科疾患救急患者の診療に当たっている。

20)地域歯科保健活動

学校歯科保健活動として、5月13日に鴨川市立田原小学校、田原幼稚園、田原保育園の歯科検診を行い、12月6日に田原小学校の歯科刷掃指導を行った。また、5月18日・19日に千葉未来高等学校の学校歯科検診も行った。

地域歯科保健活動の一環として6月25・26日にジャスコ鴨川店で歯の健康フェアを開催し、歯に関する啓蒙活動を行った。さらに鴨川歯科医師会会員と共に、鴨川市ふれあいセンターで11月20日にハッピーカムカムという地域歯科保健活動を行った。

5. 教育内容

【歯科医師】

歯科医師に関する教育内容は以下の通りである。

1)口腔外科カンファレンス

毎週水曜日に開催し、翌週の手術に関するカンファレンス等を行い診療の質を高め向上を目的とする。

2)顎関節症カンファレンス

毎週水曜日に開催し、診療の質を高め専門的な知識及び技術を身につける。

3)訪問歯科診療カンファレンス

毎月1回最終水曜日に開催し、各施設や在宅の訪問歯科診療の質を向上させる目的で行っている。

4)口腔内科カンファレンス

毎月1回最終水曜日に開催し、口臭外来を含め、口腔内科外来症例に対しての症例検討を行う。

5)歯科医師ドクター会議

毎月第2・第4火曜日に開催し、当院の歯科医師としての資質向上を目的としてカンファレンスを行う。

【研修歯科医師】

研修歯科医に関する教育内容は以下の通りである。

[卒直後の臨床研修医に関する研修プログラム]

1)理念

亀田メディカルセンターの理念を踏まえた上で、基本的診療の知識・技能を習得するとともに歯科医師としての態度・在り方を学び、全ての人々から信頼される歯科医師の育成を目指しているプログラムである。

2)歯科臨床研修医の目標

Decade(10年間)：10年後にすべての人々から望まれる歯科医師を目指して臨床研修を行う。

Energy(精力・気力)：心身の活動力を充実させて研修する。

Nouse(知性・理知)：知性(社会観・倫理観・人間性・一般教養等)を身につけ自己啓発する。

Talent(才能・技量)：個々の才能を磨き研鑽する。

Activity(積極性・活動)：全ての面にわたって積極的に研修に励む。

Love(愛)：全ての人々の幸福に貢献するために愛の心をもって常に最高水準の医療を提供することを使命とする。

3)プログラムの目的と特徴

1年間で基本的な実技研修及び講義等を行ったうえで、生涯研修の考え方を身につけるようにしている。チーム医療を実践できる能力を身につけ、一口腔単位が全身の一部であるという認識をし、oral healthに関する助言ができる知識を得る。病院歯科の特性を生かし、医科との連携診療や全身状態の把握等の医科的必要事項を判断できるようにして、緊急診療や有病者診療などの対応能力を身につける。メディカルインタビューの技術を身につけ、インフォームドコンセントの重要性を確認させる。1年間の研修を踏まえて、2年目以降には口腔外科・歯科矯正科・小児歯科等の専門分野に取り組む研修なども可能である。また、一般歯科医師として診療実践に携わることもできる。

- ・プログラム指導者：亀田秀次(歯科センター長)
- ・プログラム運営責任者：池谷恭子(歯科センター長補佐：歯科医師卒後研修室室長)
- ・指導歯科医師リスト：池谷恭子、林 亨、田村英俊、伊藤香織、川嶋崇郎、丹羽克味

当院は1997年4月から歯科医師の卒直後研修の単独研修施設として毎年研修歯科医を養成してきた。2005年には必修化に伴い単独型研修施設に再認定された。本研修プログラムは医療法人鉄蕉会の施設のほか、現在歯科センターの歯科医が出向して診療している介護特別養護老人ホーム「めぐみの里」、身体障害者療護施設「しあわせの里」、介護老人保健施設「たいよう」などへの往診や在宅訪問歯科診療にも研修医が実際に一緒に診療に赴いていることも特徴である。また、学校歯科検診、乳幼児歯科検診のほか、病院内外の健康フェア等での予防歯科的な啓蒙運動にも積極的に取り組んでいる。

4)臨床研修歯科医師の定員及び収容人員

6人を定員としている。

(2005年度は8人、2006年度は6人)

5)研修内容及びカリキュラム

期間割と研修歯科医配置予定

研修期間は4月1日から翌年3月31日まで。

一年間の研修は、一般歯科はもちろんのこと、口腔外科・小児歯科・矯正歯科にもローテーションして専門分野の基礎的知識・技能の習得に取り組む。一般歯科は、一人でも一定基準以上の診療ができるように知識及び技術の習得を行う。

4～5月

- ・指導してくれる歯科医師のもとに当院のシステムを理解するために、診療に密着して研修を行う。
- ・電子カルテを含めた診療録の記載法や技工指示書の書き方や他科依頼の方法、薬局・画像センターへの依頼法などを実際に各歯科医師の下で習得する。
- ・急患の応急処置や対応などを各歯科医師の下で実際に研修し、診療録の記載・処置方針の立案・簡単な応急処置などを身につける。
- ・全身状態の把握や理解について知識の向上・習得に努める。

6月以降

- ・救急外来の当直体制に参加し、歯科の応急処置が的確に行えるように努める。
- ・歯周病学に関しては毎月一回歯周病専門の非常勤講師を招聘し、最先端の講義及び豚の顎骨を用いたりして基本的な実習を行うなど多岐にわたった研修を行っている。
- ・口腔外科に関しては中央手術室での研修や病棟管理の基本的事項などの専門的な分野をはじめ、抜

歯や歯科小手術も実際に研鑽をつむことができる。

・顎関節症やデンタルインプラントに関しても知識や技術を研修することも可能である。2005 年度は 12 月 4 日にインプラントの院外講習会に参加した。

・各医療施設への訪問診療や在宅訪問歯科診療なども担当歯科医とともに赴き診療に携わる。

・臨床研修の各段階に応じて講義を予定している。研修の初期段階は基本的な項目の講義を中心にして、段階を追う毎に研修歯科医師の自ら学びたい事項についてもリクエストに応じる予定である。

・学校歯科検診、乳幼児歯科検診をはじめ、院内の健康フェアや院外施設での歯科に関するイベントにも参加し歯科の予防に関する知識を身につけ、社会的な啓蒙運動の意義等に深慮できるようにする。

各種講義について

臨床実習で経験できないことの補足や最近の話題等を含めて講義を行う。

主な講義内容

- ・全身状態の診査
- ・顎顔面領域の視診・触診・打診
- ・簡単な器具を用いる一般的検査(全身検査・口腔内及び顎関節の検査)
- ・診療録等の作成について
- ・診療計画・評価・診療姿勢について
- ・POS について
- ・他科との連携、高齢者・有病者への対応について
- ・消毒及び滅菌法について
- ・感染症について
- ・投薬の基本について
- ・インフォームドコンセントについて
- ・メディカルインタビューについて
- ・電子カルテシステムについて
- ・診療用顎模型について
- ・顎・顔面・口腔内写真について
- ・歯科用 X 線検査について(デンタル・パントモ・セファロ等)
- ・局所麻酔法について
- ・抜歯について
- ・口腔内外消炎処置について
- ・歯周病について(プラークコントロールから歯周外科まで)
- ・学校保健について
- ・母子保健について
- ・歯科検診について
- ・保存修復の実際について
- ・歯内療法の実際について
- ・補綴処置の実際について
- ・救急当直について

- ・小児歯科について
- ・顎関節症について(口腔外科の立場から、補綴科の立場から)
- ・外傷歯について
- ・困難な欠損補綴について
- ・矯正装置の操作について
- ・咬合誘導について
- ・偶発症への対応及び救急処置について
- ・静脈確保・採血・注射法について
- ・心身障害児(者)の歯科治療について

研修内容と到達目標

- ・臨床実習を中心として症例検討・実習・セミナー・見学等を組み合わせた臨床研修を行う。
- ・厚生省の掲げた具体的目標の項目について研修の各段階で必要な講義を行う。
- ・具体的項目については臨床の実技研修を行い、研修歯科医と指導歯科医の相互において評価を行う。
- ・研修期間の開始時と終了時および途中経過時期で、指導医における全体的な評価をし研修医にフィードバックする。
- ・歯科全般的な技術習得のみならず、人間性を重視した医療に目を向ける能力をつけるために Basic Life Support(BLS)の講習会参加をはじめとして、院内各種講演会やカンファレンスへの参加を積極的に促す。
- ・電子カルテの概念を理解し、電子カルテから歯科診療に必要な全身状態の把握ができるようにして確実な診療録等の作成を促す。同時に他科への対診やコンサルテーションの機会を持たせ、幅広い診療能力を修得させる。
- ・メディカルインタビューの基本的な研修をし、インフォームドコンセントの能力を身につけ、総合的な判断、問題解決能力を備えられるようにする。
- ・生涯研修への基盤形成時期として、社会性、協調性、リーダーシップに関する能力を啓発する。
- ・生涯研修への基本としてインターネット等を用いた文献検索を含む情報収集能力を付けさせる。

研修歯科医の勤務時間

- ・勤務時間は原則として月曜日から土曜日までの 8 時 45 分から 18 時まで。
- ・拘束及び当直時を除いて原則として日曜・祝日は休み。
- ・休暇はプログラム指導責任者の判断で取ることができる。

教育に関する行事

- ・オリエンテーション：研修開始前 1 日間程度実施。院内の諸規程、設備概要、設備利用法、各部署の概要等、一連のレクチュア等を行う。当院のスタッフとして医療従事者の心構え等の概要説明をする。
- ・歯科センター独自のカンファレンスへ必ず参加する。(歯科医師ドクター会議・口腔外科カンファレンス・臨床検討会等)
- ・BLS(Basic Life Support)講習会への参加：研修開始後初期段階で、初期救命救急処置についての当院での講習会に参加する。
- ・院内各種講演会：年間約 10 回程度のオープン形式で実施される院外講師による学術講演会に参加

する。

・学校歯科保健：学校歯科保健に基づく学童の歯科検診および指導を指導的立場の歯科医師とともに
行う。

・母子歯科保健：母子歯科保健に基づく母性、乳幼児に関する保健指導および検診を指導的立場の歯
科医師とともに行う。

・地域保健および成人・老人歯科保健：地域の歯科保健対策の推進に関する保健事業に参加する。

TTSP(Transdisciplinary Transitional SupportProgram)：レジデントミーティングとして月1回、
院内各部門の研修生と一緒に講義で、院長の講義はじめ、臨床倫理の講義等医療従事者に必要な
講義に参加し、院内各部門の研修生との交流を深める。

・その他：院内各種カンファレンスへの参加(死亡例検討会、脳神経病理ジョイントカンファレンス
等)や学会への参加等。

指導体制

各指導歯科医のもと、実技及び講義・セミナー等を行い、必要に応じて専門的分野の指導者を招聘し
て指導する。

研修歯科医の評価

1年間の症例に対して指導歯科医の評価および自己評価を行うようにする。症例の偏りをなくし、技
術・知識の修得の効果が判断しやすいように評価表を用いて各段階でチェックしている。

2005年度は研修開始時4月25日にOSCE、11月7日に中間評価、3月17日終了時の評価と、ステ
ップ毎に全体評価を行った。2006年度も5月8日に一回目の評価を行い、同様に各段階で評価する
予定である。

プログラム終了の設定

各研修歯科医から到達目標が達成されたことを確認後、研修委員会の意見に基づき修了を認定し、こ
のプログラムが終了したことを記した終了証書を授与する。2005年度の終了式は3月28日に施行
した。

プログラム終了後のコース

1年間の研修に引き続き、2年次のより専門的な研修プログラムを行うことが可能である。その後は
当院での勤務、他院への就職、大学院への進学等。

研修歯科医の処遇

- ・病院職員として遇され、福利厚生等あり。
- ・1年次の給与は月額165,000円。宿舎・社会保険等あり。
- ・2年次以降は院内規程に準ずる。
- ・当直は当直費および夕食、翌朝食の支給あり。歯科当直室での仮眠可。

6)2007年度亀田総合病院臨床研修歯科医募集要項

- ・研修期間：2007年4月上旬より2008年3月31日まで1年間
- ・募集人数：6名
- ・応募資格：2007年歯科医師免許取得見込者
- ・必要書類：履歴書・成績証明書・健康診断書・卒業見込証明書等
- ・選考方法：筆記試験・面接・書類審査によって可否を決定する。

・ 出願締切日・選考日：

2007 年度応募締め切り 2006 年 7 月 28 日(金)

選考日 2006 年 8 月 6 日(日)

・ 応募連絡先・資料連絡先：

〒296-8602 千葉県鴨川市東町 929 番地

医療法人鉄蕉会亀田総合病院

歯科医師卒後研修室担当：辻弘美、岡田弘之

TEL:0470-99-1117FAX:0470-99-2317

【歯科衛生士】

歯科衛生士に関する教育内容は以下の通りである。

表 2 歯周病講習会

月	研修テーマ	研修内容・ねらい
5月	歯周組織について	基礎知識の確認
6月	歯周疾患について	診査について学ぶ
7月	実習ブラークコントロール	染め出し効果を確認する
8月	実習プローピング	正確なプローピングを学ぶ
9月	プロケア（PMTC器材）	使用法・用途について考える
10月	プロケア（PMTC器材）	器材の種類についての理解
11月	超音波スケーラーについて	知識を深め理解する
12月	口腔ケアについて	個人に合った方法を考える
1月	口腔内ホームケア用品について	個人に合った方法を考える
2月	フッ化物応用について	歯磨剤・フッ化物の実際について
3月	フッ素について知る	重複使用・家庭での応用について

1)歯周病講習会

歯科衛生士全員および歯科助手を対象として毎月 1 回 2 時間程度 歯周病講習会を行っている。

2005 年度の講義内容は下記の通りである。

2)新入職の歯科衛生士に対する研修内容は以下の通りである。

表 3 新入職歯科衛生士研修

実習オリエンテーション

エックス線写真検査について	歯科で用いる薬剤について
印象採得・石膏模型について	電話・インターホンの対応について
歯科用セメント・綿栓について	各種書類記入方法について
仮封・TEK について	各種機械のメンテナンスについて
補綴物の整理について	電子カルテの操作方法について
スケーリング・パキュームテクニックについて	

表 4 実務研修

一般歯科の診療補助および介助について
歯科の予防処置について

歯科の保健指導について
シーラントについて
小児におけるトレーニングについて
小児歯科の患児と保護者への説明や対応について
口腔外科基礎実習
手洗い・消毒・滅菌について
バイタルサインについて
救急蘇生法について
歯周病基本検査実習
プロービングについて
歯科治療上の清潔・不潔領域について
口腔外科の処置と手順について
口腔外科の器具名と用途の理解について
口腔外科に関する各種事務処理について
歯科矯正の知識・治療の流れについて
矯正装置の違いによる衛生の知識について
口腔外科基礎勉強会
骨折について
腫瘍について
炎症について

3)2005 年度より歯科衛生士が毎月一回、担当を決めて新しい知識を共有するために勉強会を開催した。

表 5 歯科衛生士勉強会

月日	内 容
6月29日	自治医科大学研修会報告
7月24日	インプラントのメンテナンスについて
9月18日	口腔ケアの役割と実践について
10月26日	口腔外科領域に於ける病理検査について
11月24日	摂食・嚥下について
12月18日	摂食・嚥下について

4)外部講師(DH.大金容子)を招聘して楽しく、よい仕事ができるように勉強会を開催した。

表 6 プロフェッショナルの歯科衛生士の勉強会 by 大金容子講師

月日	内 容
5月8日	コーチングスキルについて
8月7日	アロマセラピーについて
11月27日	シャープニング・プロービング実習
3月26日	シャープニング・プロービング実習

【歯科技工士】

歯科技工士に関する研修内容は以下の通り必要に応じて随時開催している。

- ・ 技工材料勉強会
- ・ 歯科技工技術勉強会

6. 学術関係

表7 歯科医師年間業績

学会発表

演者	演題名	学会名	発表日	場所
小野田紀生、山口尚彦、山崎香代子、 内田 淳、田中千早、小倉 基、 綿引隆一郎、田村英俊	当科における顔面骨骨折の 臨床的検討	第7回日本口腔顎顔面外 傷学会総会	2005.6.25	千葉市
山口尚彦、小野田紀生、山崎香代子、 内田 淳、田中千早、小倉 基、 綿引隆一郎、田村英俊	診断に苦慮した口蓋潰瘍の 2症例	日本口腔外科学会	2005.10.24	大阪府

雑誌投稿

医者がすすめる専門病院 千葉 茨城	田村英俊	2005.11.3 P315
-------------------	------	----------------

表8 歯科衛生士活動報告

口腔ケア講演

月日	演者	内容	対象者
9月21日	高木和葉、小林幸乃、笹生昌子	一歩進んだ口腔ケアと実習	神経難病患者・家族・介護支援者
9月28日	高木和葉、小林幸乃、笹生昌子、 渡辺みゑ	口腔ケアの役割と実践&実 習	訪問介護員・施設職員他
10月22日	高木和葉、小林幸乃、岡本純恵	口腔ケアの役割と実践&実 習	訪問看護ステーション職員
11月19日	高木和葉、岡本純恵	口腔ケアの役割と実践&実 習	ホームヘルパー・難病介護関係者
11月22日	高木和葉、高梨敬子	病院紹介と歯科衛生士の役 割	太陽歯科衛生士専門学校学生
1月26日	小林幸乃、岡本純恵	口腔ケアの役割と実践&実 習	太陽会職員

学会参加

月日	演題名	学会名	共同演者
3月25日	カンボジアにおける歯科国際協力 活動	日本有病者歯科学会	笹生昌子

文責：亀田秀次